

親に言われた、美術は何の役にも立たないと

美術は英数国理社より下ですか

感性を養うのがそんなに大切ですか

アーティストって職業ではないのですか

美術表現が一切禁じられた社会を想像してみる

美術はあなたの居場所を作る、かもしれない

美術が無駄だと思っているあなたへ

連続シンポジウム
「美術と写真を考える」 | 第1回
中高生から見た美術

日時
2023年 11月18日 日 14:00 → 15:30

会場
横浜 BankART KAIKO
展覧会「東京造形大学 写真研究所」展示会場内
(横浜市中区北仲通 5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F)

東京造形大学写真専攻領域では、今年から11月に行う3・4年生の研究指標科目「写真演習A(表現研究)」の成果発表展覧会「東京造形大学 写真研究所」の会期内に「美術と写真を考える」と題してシンポジウムを毎年開催してまいります。第一回目となる今回は、「中高生から見た美術」をテーマに、異なる現場で美術教育に携わるパネラーをお招きして、中高生にとって、美術にどのような可能性があるのかについて考えます。

パネラー: 木村登 (東京都立晴海総合高等学校 美術科 教諭)、端山聡子 (東京国立近代美術館 企画課主任学芸員 / 教育普及室長)、北野謙 (東京造形大学 特任教授) 進行: 鷹野隆大 (東京造形大学 教授)

主催: 東京造形大学写真専攻領域 お問い合わせ: 写真専攻領域 shasin@zokei.ac.jp
展覧会「東京造形大学 写真研究所」の会期は 11月17日(金)~11月23日(木・祝) 11:00~19:00 (最終日は16:30まで) 入場無料

連続シンポジウム 「美術と写真を考える」

パネラー

木村登

東京都立晴海総合高等学校 美術科 教諭

昭和 43 年生まれ。平成 6 年武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科卒業。平成 9 年度まで非常勤講師。

平成 10 年度より都立高校教諭。工業デザイン科、昼夜間定時制、チャレンジスクール等多様な校種を経験。

現在都立晴海高校美術科勤務。

端山聡子

東京国立近代美術館 企画課主任研究員 / 教育普及室長

平塚市美術館、横浜美術館を経て、現職。美術館の教育普及では、多様な参加者のためのプログラム開発と実施に携わった。横浜美術館の中高生プログラムは「ヨコハマトリエンナーレ 2014」で開始、以降 7 年間にわたり実施した。

北野謙

東京造形大学写真専攻領域 特任教授

大学では演習授業「写真表現研究」とゼミナールの他、本シンポジウム及び展覧会を担当。写真家としては自己と他者、対称性をテーマに作品を制作。国内外で展覧会多数。作品は東京国立近代美術館、東京都写真美術館ほか多数の美術館に収蔵されている。

進行

鷹野隆大

東京造形大学写真専攻領域 教授

大学では演習授業「理論研究」のほか、「地域研究」などを担当。2006 年、木村伊兵衛写真賞受賞。2021 年、国立国際美術館（大阪）にて個展『毎日写真 1999-2021』開催。2022 年、芸術選奨 文部科学大臣賞（美術部門）、写真の町東川賞国内作家賞を受賞。

その他のイベント

11月19日（日） 1 回目 13:00 2 回目 14:00

写真を見る、聞く、話す

11月23日（木・祝） 14:30~16:30

公開講評会



第1回

中高生から見た美術

趣旨

美術との出会いは、人生を豊かにします。もっとも美術そのものは、何かに奉仕するものでは決してありませんが、美術は、人が生きていく上で必要な拠り所や、多様な考えが共存する場を世界に与えてくれます。とりわけ中高生を含む若い人々は、人生の様々な問題と出会います。美術や写真表現が寄与するものは案外大きいのではないのでしょうか。

現在中学高等学校では美術の授業が大幅に削減されています。また美術館学芸員からは、高校生が美術館に最も縁遠い世代だという話が聞かれます。若い世代が、美術と出会う機会は多いとは言えないようです。

高校生の進路としては、芸術系高校や予備校に通い、画力重視の入学試験を経て美術大学へ進学する“美大コース”がある一方で、様々な抑圧を受けている人や健康上の問題を抱える人にとって、美術は大きな支えや拠り所となっています。そのような美術が駆動する両極がある中で、一般の層の間で美術が希薄なのは、日本が文化的に貧しいからなのでしょうか？

東京造形大学は人間形成もふくむ包括的な創作活動を「造形」と位置づけています。そして写真は、現在では美術の一ジャンルでもありますが、デザインはもちろん、科学、哲学、社会学、地域学といった社会の様々な分野と領域を共有します。写真専攻のそのような柔軟で幅広い立ち位置から、今一度ベーシックな意味での美術の意味や可能性を考えたいと思います。

このシンポジウムは、中学、高校、大学、美術館、関連施設や団体等で美術の教育や普及、研究に携わる方にはご参加していただきたいですし、またテーマに関心のある高校生や保護者、一般の方、表面の冒頭に挙げた言葉に少しでも反応された方も、ぜひご参加ください。

定員：先着 5 名 所要時間：45 分 対象：中高生、一般

参加者の皆さんと学生とご一緒におしゃべりをしながら、展示作品を鑑賞します。各回 5 分前に受付にお集まりください。

ゲストに東京都写真美術館学芸員の山田裕理氏をお招きして、一般に公開の形で学生の作品を講評します。大学の授業をどなたでも見学できます。

会場のアクセス

神奈川県横浜市中区北仲通5丁目57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F
みなとみらい線「馬車道」駅下車 2a 出口 徒歩1分

最新の情報はこちらで発信中！

instagram



X



専攻HP

